

## 1、研究の目的

### 1、1、浜中町内におけるハナタネツケバナの分布実態調査

北海道湿地踏査団による北海道におけるハナタネツケバナ(環境省レッドデータ絶滅危惧 I B 類)の実態調査の一環として、浜中町内で 2023 年までにハナタネツケバナが記録された湿原 3 か所(霧多布湿原、幌戸、姉別)と、記録は無いが自生する可能性が高いとみられる湿原 1 か所(琵琶瀬)についてハナタネツケバナの有無や分布状況を確認する。

### 1、2、ハナタネツケバナの新規標本採取と公的研究機関への提供

我が国におけるハナタネツケバナの標本の大半は根生葉を欠いており、我が国における通説どおり *Cardamine pratensis* Linnaeus に比定するのが正しいか否かを判断する決め手に欠けている。また、霧多布湿原や幌戸で採取された標本は 30 年以上前のもので、DNA 分析用サンプリングには向いていない。これらの問題を解決すべく、根生葉を伴った状態の標本を新たに採取し、公的研究機関での利用が可能な状態とする。

## 2、調査実施要領

### 2、1、調査地

調査地の位置を次ページ図 1 に示す。

**霧多布湿原**・・・新川と道道別海厚岸線の間。榊町、暮帰別西 3 丁目。厚岸霧多布昆布森国定公園(以下「国定公園」)の第 2 種特別地域。NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト所有地。1978 年または 1981 年にハナタネツケバナが採取された可能性あり。

**琵琶瀬**・・・一番川河口～下流右岸。国定公園の第 2 種特別地域。NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト所有地。霧多布湿原と類似した環境が空中写真から推測された。

**榊町**・・・民宿「霧多布里」と海岸の間の小湿原。国定公園の普通地域。1978 年または 1981 年にハナタネツケバナが採取された可能性があり、2022 年頃まで開花報告が民宿「霧多布里」のブログに掲載されていた。

**姉別**・・・姉別川南岸。民有地。2023 年に北海道湿地踏査団がハナタネツケバナを発見。

**幌戸**・・・幌戸沼東岸。国定公園の第 3 種特別地域。浜中町有地。1988 年にハナタネツケバナの標本が採取され近年も目撃例がある幌戸沼南西側よりも湿潤な湿原の存在が空中写真から推測された。

以上 5 地区について地権者と交渉し、立ち入りと標本用の植物採取許可を得た。なお、幌戸は浜中町役場から、霧多布湿原と琵琶瀬は NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラストから、それぞれ立ち入り許可証の交付を受けた。



図1 調査地の位置図

## 2、2、調査方法

調査地を踏査し、発見した植物種を野帳に記録した。

ハナタネツケバナを確認した場合は開花株 1~3 株ごとに座標<sup>1</sup>を記録し、開花株 5~10 株あたり 1 点以下を基準に標本を採取した。ハナタネツケバナ以外の植物についても、その調査地で特徴的と考えられる植物については、ハナタネツケバナと同様の基準で標本を採取した。

## 2、3、調査日

調査地ごとの調査日を表 1 に示す。

調査地	霧多布湿原	琵琶瀬	榊町	姉別	幌戸
2024/5/18	△	△			△ <sup>2</sup>
2024/5/19	△		△		
2024/5/25				○	
2024/5/26				○	
2024/5/27				○	
2024/5/28			○		○
2024/5/29				○	○
(追加)2024/7/6					△
(追加)2024/7/13					△
(追加)2024/8/11					△
(追加)2024/8/14				△	

表 1 調査日一覧 △・・・ハナタネツケバナ未確認 ○・・・ハナタネツケバナ確認

## 3、調査結果

### 3、1、ハナタネツケバナの確認に到らなかった調査地

霧多布湿原と琵琶瀬は 5 月 18・19 日の踏査でハナタネツケバナの確認に到らなかった。

これら 2 調査地では地下水位が低い場所が多く、湿潤な区域でも地下水位が乱高下した形跡が見られた。ハナタネツケバナは地下水位の変動が少ない湿潤地を好むため、これら 2 調査地ではハナタネツケバナ確認の可能性は今後も極めて低いと考えられる。

### 3、2、ハナタネツケバナが再確認できた調査地

#### 3、2、1、榊町

自生地点を図 2 に、生育状況を写真 1 に示す。

この調査地はツルスゲの地下茎が緻密に絡み合ったマットが水面を覆い尽くしてできた湿原で、地面は極めて軟弱で、足を踏み入るとウォーターベッドのように地面が沈み込み、踏査は困難を極めた。その他の特徴的な植物種としては、ミツガシワ、ドクゼリ、イワノガリヤス、エゾノレンリソウ、サギスゲ、ミズオトギリ、スギナモなどが挙げられる。

<sup>1</sup> 座標は調査者のスマートフォンにインストールした登山用アプリ Geographica のマーカー機能を利用して記録した。

<sup>2</sup> 幌戸沼東岸ではハナタネツケバナ確認には至らなかったが、1988 年の標本採取地点付近でハナタネツケバナの根生葉を確認。

ハナタネツケバナはツルスゲに半ば埋もれるようにして生育していた。いずれの開花株も孤立しており、根元はツルスゲに締め上げられ、周囲に小株や苗は見当たらず、個体数が減少している可能性が伺われた。近隣の民宿「霧多布里」経営者がハナタネツケバナの開花数の激減を証言していることと合致する。

この調査地は国定公園の普通地域にあたるため、開発行為が規制されていない。この調査地の北隣の湿原は埋め立てが進行中である。北方約 600m に酷似した環境と推察される湿原が存在するが、ソーラーパネル建設が進んでおり、もし仮に今後ハナタネツケバナが発見されたとしても建設行為に巻き込まれて遠くない将来に消滅すると考えられる。



図2 榊町のハナタネツケバナ自生地点



写真1 榊町のハナタネツケバナの生育状況

### 3、2、2、姉別

生育状況を写真2に、自生地点を図3に示す。

風蓮川の一次支川である姉別川と南側の丘陵地の間にひろがる氾濫原は、チャミズゴケ、ガンコウラン、ヤチツツジ、カンチスゲ、チシマウスバスマミレなどが見られる高層湿原からなる一角を除いて、ほとんどが低層湿原となっている。低層湿原部分ではヨシやツルスゲが卓越しており、クシロハナシノブ、シオガマガク、ヒオウギアヤメ、エゾノレンリソウ、ミツガシワ、エンコウソウなどが混生する。湿原と丘陵地のすそ野にまたがる形で旧道が走っており、空中写真でも直線状の痕跡が確認できる。

ハナタネツケバナは東西 1.62km にわたって、姉別川と丘陵のすそ野の中間付近の低層湿原に群落を形成している。この群落は浜中町内最大であり、釧路湿原や別寒辺牛湿原の群落に次ぐ規模である。旧道の側溝を埋めて繁茂したツルスゲの浮島上や、丘陵地からの伏流水の湧水点付近に集中して生える傾向が見られた。それ以外の場所ではヨシやツルスゲからなる谷地坊主の基部でヒョウタンゴケやハイゴケに混じって生えており(写真3)、密度は低いもののやや大型の株になる傾向があった。榊町と違って孤立した開花株は極めて稀で、複数の開花株が隣接する(写真4)か、開花株の根元に小株や苗が複数見られるか、未開花株が数株密集している場合がほとんどで、旺盛な栄養繁殖がうかがわれる。2023年の探索では群落の東半分には空隙が見られたが、2024年の踏査で空隙部分を埋める中間地点でも開花株が見られ、西半分では旧道北側で開花株の散在が確認でき、面的・連続的な分布であることが明らかとなった。

この調査地は、指定に向けて現在検討が進められている野付・風蓮・根室半島国定公園(仮称)の範囲に含まれているが、現状では全く保護の対象となっていない。



写真2 姉別のハナタネツケバナの生育状況

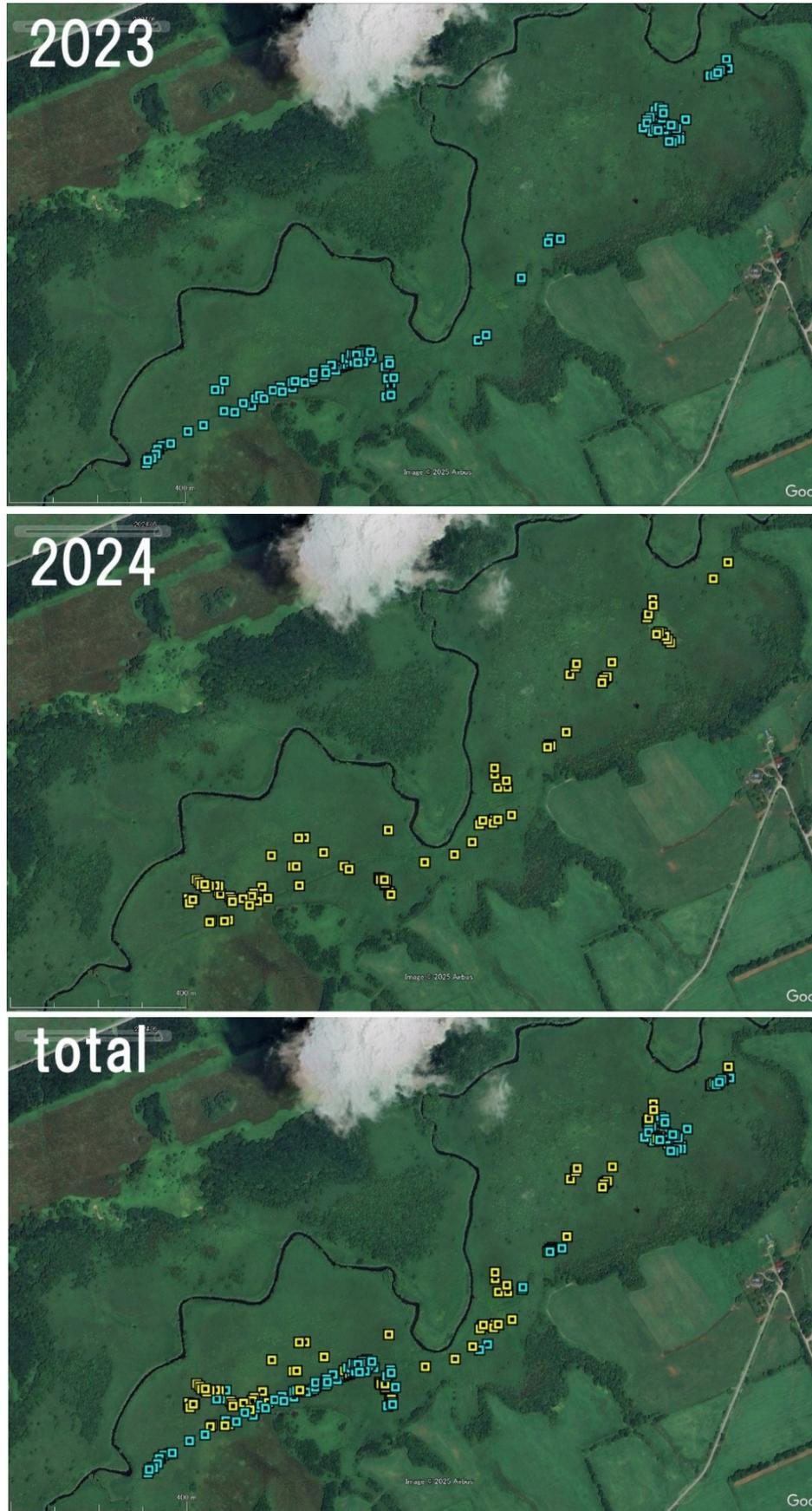


図3 姉別のハナタネツケバナ自生地点  
(水色・・・2023年確認 黄色・・・2024年確認)



写真3 ヨシの株元でハイゴケに混じって生えるハナタネツケバナの未開花株(姉別)



写真4 ツルスゲに混じって生える複数のハナタネツケバナ開花株(姉別)

### 3、2、3、幌戸

生育状況を写真5に、自生地点を図4に示す。

幌戸沼の東側に広がる湿原は、南半分は背の高いヨシに様々な植物が入り混じる低層湿原で標高約2m、北半分では標高は約1mとやや低くなり、ツルスゲ、ムジナスゲ、ミツガシワ、スギナモ、ミズゴケ類が入り混じる中層湿原となっている。中層湿原部分は榊町と同様に足元がウォーターベッドのように波打つ場所が大半で、南半分はミズゴケやツルスゲに混じって生育が悪く背の低いヨシがまばらに生えていることから“矮蘆(わいろ)ヶ原”と命名した。

ハナタネツケバナは3か所で小群落を形成していた。図4のaではヨシ、ツルスゲ、ムジナスゲの株本に散在していた。bは“矮蘆ヶ原”の中心部に位置し、マット状のミズゴケ群落にツルスゲ、ムジナスゲ、ミツガシワなどが疎生する中に散在していた。

今回発見されたa～cの群落は1988年に標本が採取された区域からかけ離れており、かつより広範囲である。“矮蘆ヶ原”のより緻密な踏査や近隣の湿原の踏査によって更に自生地点が見つかる可能性は排除できず、今後の調査が肝要である。



写真5 幌戸“矮蘆ヶ原”のハナタネツケバナの生育状況



図4 幌戸のハナタネツケバナ自生地点

### 3、3、ハナタネツケバナ以外の希少植物

この度の調査で確認されたハナタネツケバナ以外の絶滅危惧植物を表2に示す。

科	種名	環境省 RL	北海道 RL	霧多布湿原	琵琶瀬	榊町	姉別	幌戸
カヤツリグサ科	カンチスゲ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)				○	
カヤツリグサ科	イトナルコスゲ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				○	
ラン科	ミズトンボ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)			○	○	○
ラン科	ヒメミズトンボ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					○
ラン科	コアニチドリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					○
ラン科	サワラン		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					○
ラン科	トキシウ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				○	○
ハナシノブ科	クシロハナシノブ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	○	○	○	○	○
スマレ科	チシマウスバスマレ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		○	○		○	
ツツジ科	ヤチツツジ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)					○	
ツツジ科	ヒメツルコケモモ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				○	
タヌキモ科	ヒメタヌキモ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)						○

表2 ハナタネツケバナ以外の絶滅危惧植物一覧

厚岸霧多布昆布森国定公園では2024年12月27日に指定種リストが発表されている。上記の種のうち、幌戸“矮蘆ヶ原”で発見されたコアニチドリ(写真6)はリストに含まれていない。



写真6 幌戸“矮蘆ヶ原”のコアニチドリ

### 3、4、知見の共有

#### 3、4、1、植物標本の採取と寄贈

この度の調査では 22 科 39 種 70 点の植物標本を採取した。寄贈先は北海道大学附属博物館が 47 点で最も多く、国立科学博物館 11 点、釧路市立博物館 10 点、北海道博物館 2 点で、北海道大学総合博物館分を除く 23 点は寄贈先での整理・記帳が完了して標本庫に収蔵済みである。

ハナタネツケバナの標本は榑町で 2 点、姉別と幌戸で各 4 点の合計 10 点採取し、うち 5 点を釧路市立博物館、各 2 点を北海道大学総合博物館と国立科学博物館、1 点を北海道博物館に寄贈した。我が国では北海道東部の低地の湿原にのみ産するハナタネツケバナの標本は釧路市立博物館に最も多く収蔵されており、今後もハナタネツケバナの研究において拠点となりうると考えられたため、同館への標本寄贈を優先した。同時に、北海道外の植物標本庫に国内産のハナタネツケバナの標本が過去に収蔵されていないことが関係者からの聞き取りで判明したため、国立科学博物館への寄贈にも踏み切った。

寄贈標本の一覧を表 3 に示す。

年月日	科名	和名	採集地	標本寄贈先	標本番号
5 月 25 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、姉別、無名湿原	釧路市立博物館	KCMH10951
5 月 25 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、姉別、無名湿原	釧路市立博物館	KCMH10952
5 月 25 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、姉別、無名湿原	北海道博物館	HM190965
5 月 25 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、姉別、無名湿原	国立科学博物館	TNS VS-1356712
5 月 26 日	カヤツリグサ科	カンチスゲ	浜中町、姉別、無名湿原	国立科学博物館	TNS VS-1356714
5 月 26 日	カヤツリグサ科	カンチスゲ	浜中町、姉別、無名湿原	釧路市立博物館	KCMH10953
5 月 28 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
5 月 28 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1356720
5 月 28 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、榑町、海岸の小湿原	北大総合博物館	整理中
5 月 28 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、榑町、海岸の小湿原	釧路市立博物館	KCMH10954
5 月 29 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	釧路市立博物館	KCMH10955
5 月 29 日	アブラナ科	ハナタネツケバナ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	釧路市立博物館	KCMH10956
5 月 29 日	スマレ科	シロスマレ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
5 月 29 日	スマレ科	シロスマレ	浜中町、姉別、無名湿原	釧路市立博物館	KCMH10957
7 月 6 日	バラ科	ヤマブキショウマ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 6 日	ハナシノブ科	クシロハナシノブ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 6 日	ラン科	コアニチドリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 6 日	ラン科	トキノウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 6 日	ラン科	コアニチドリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	釧路市立博物館	KCMH10964
7 月 6 日	ラン科	トキノウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	釧路市立博物館	KCMH10965
7 月 13 日	ラン科	コアニチドリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 13 日	ラン科	コアニチドリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 13 日	モウセンゴケ科	モウセンゴケ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 13 日	カヤツリグサ科	ヒメワタスゲ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 13 日	モウセンゴケ科	モウセンゴケ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北海道博物館	HM190971
7 月 13 日	カヤツリグサ科	ヒメワタスゲ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	釧路市立博物館	KCMH10966
7 月 13 日	アヤメ科	ノハナショウブ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
7 月 13 日	フウロソウ科	エゾフウロ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中

8月11日	シソ科	エゾイヌゴマ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	シソ科	エゾナミキ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	シソ科	ヒメシロネ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キク科	トウゲブキ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キク科	エゾノコギリソウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ミソハギ科	エゾミソハギ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ラン科	ヒメズトンボ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ラン科	ミズトンボ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	タヌキモ科	タヌキモ属 sp.	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	タヌキモ科	タヌキモ属 sp.	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	タヌキモ科	ヒメタヌキモ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	タヌキモ科	ヒメタヌキモ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ハマウツボ科	シオガマガク	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ハマウツボ科	シオガマガク	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	オトギリソウ科	オトギリソウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	オトギリソウ科	ミズオトギリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	バラ科	ホザキシモツケ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ヒメシダ科	ヒメシダ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キンボウゲ科	エゾトリカブト	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	マメ科	ヤブマメ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キク科	ミミコウモリ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	シソ科	エゾシロネ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キク科	ハンゴンソウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	コウヤワラビ科	コウヤワラビ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	ミソハギ科	エゾミソハギ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358484
8月11日	シソ科	エゾナミキ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358483
8月11日	オトギリソウ科	トモエソウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	シソ科	エゾシロネ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	フウロソウ科	エゾフウロ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358482
8月11日	フウロソウ科	エゾフウロ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358481
8月11日	シソ科	エゾナミキ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358480
8月11日	キク科	エゾノコギリソウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	国立科学博物館	TNS VS-1358479
8月11日	キンボウゲ科	アキカラマツ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月11日	キキョウ科	サワギキョウ	浜中町、幌戸、幌戸沼北東	北大総合博物館	整理中
8月14日	キク科	ミヤマアキノキリンソウ	浜中町、姉別、無名湿原	国立科学博物館	TNS VS-1358472
8月14日	キキョウ科	サワギキョウ	浜中町、姉別、無名湿原	国立科学博物館	TNS VS-1358471
8月14日	ラン科	ミズトンボ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
8月14日	ツツジ科	ヤチツツジ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
8月14日	イネ科	ヌマガヤ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
8月14日	カヤツリグサ科	ハリイ属 sp.	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
8月14日	シソ科	ヒメシロネ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中
8月14日	シソ科	ヒメシロネ	浜中町、姉別、無名湿原	北大総合博物館	整理中

表3 寄贈植物標本の一覧

### 3、4、2、『北方山草』への投稿

この度の研究で得られた知見の一部は、北方山草会誌『北方山草』第42号(2025年3月)への投稿『ハナタネツケバナ *Cardamine pratensis* あれこれ』で発表した。『北方山草』の記事はwebサイト J-Stage(科学技術情報発信・流通総合システム)で検索可能である。

## 4、小考察

### 4、1、北海道のハナタネツケバナの検証

ハナタネツケバナと近縁種の比較を表4に示す。

学名	<i>Cardamine pratensis</i> L.	<i>C. dentata</i> Schult.	<i>C. polemonioides</i> Rouy
和名	ハナタネツケバナ セキソウ(戦前まで)	(無し)	(セキソウ?)
草高(cm)	20~50	20~40	5~30
小葉形状	紡錘形~円形 鋸歯なし	紡錘形~円形 鋸歯あり	紡錘形~円形、舟型 鋸歯なし
根生葉小葉の毛	疎毛	疎毛	無毛
根生葉小葉の厚さと葉脈	薄く、葉脈は隆起	薄く、葉脈は隆起	分厚く、葉脈は陥没
根生葉頂小葉	他の小葉より明らかに大きい	他の小葉と同じ大きさ	他の小葉よりやや大きい
茎葉枚数	1~4	5以上	2~4
茎葉小葉の柄	無柄~極短柄	長柄	無柄
萼長	3~4	4~6	
花卉長	8~13	12~18	9~12
分布	北米東部、ヨーロッパ 中央・北アジア	北米東部、ヨーロッパ アジア西部	周北極分布

表4 ハナタネツケバナと近縁種の比較表

浜中町内で採取したハナタネツケバナは根生葉小葉に極短い毛がまばらに生え、頂小葉は他の小葉より明らかに大きかった。また茎葉小葉にはごく短い柄が認められた。これらの特徴はいずれも上記3種のうち *C. pratensis* に当てはまるものであり、我が国のハナタネツケバナの学名として *C. pratensis* を採用する従来の説を支持するものである。

但し、ヨーロッパでは *C. pratensis* は湿原だけではなく湿った芝生、放棄牧草地、素掘り側溝の法面などで普通に見られ、3月末から7月にかけて長期間にわたって咲くのに対し、日本のハナタネツケバナは北海道東部のごく一部の湿原にしか自生せず、放棄牧草地などでは過去に報告が無く、近年の花期は5月中旬から6月上旬にかけての短い期間に限られる。これらの違いだけでは日本のハナタネツケバナを *C. pratensis* とは別種であると結論するには不十分だが、別種である可能性は排除できない。今後も様々なアプローチからの研究が求められる。

#### 4、2、ハナタネツケバナの特異点としての浜中町

標本記録がある北海道東部のハナタネツケバナ自生地を図5に示す。

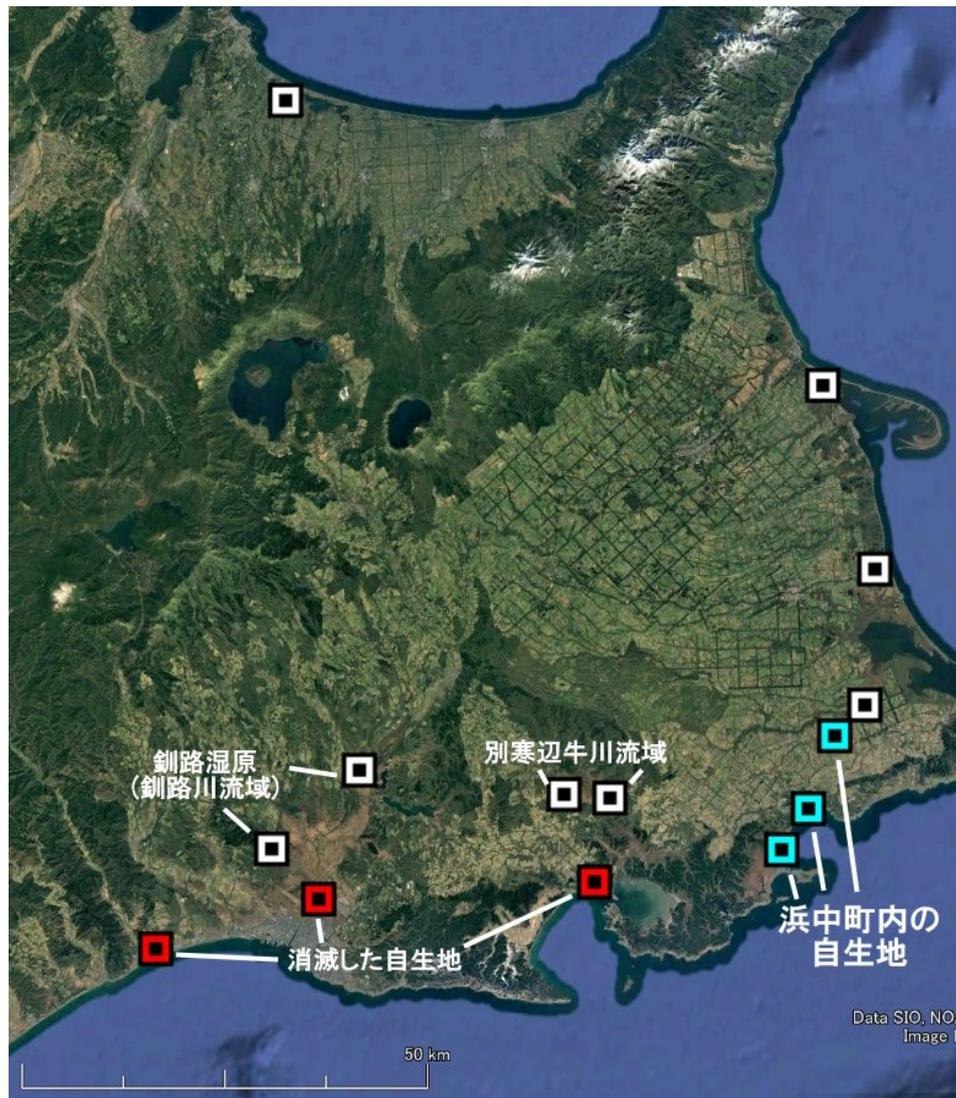


図5 北海道東部のハナタネツケバナの自生地

釧路湿原は釧路市、釧路町、鶴居村、標茶町にまたがっており、ハナタネツケバナの標本は釧路町を除く3市町村で記録されている。釧路湿原ではハナタネツケバナは随所の中層湿原に見られるとの証言がある(新庄久志(私信))が、結果的にこれらの自生地は全て釧路川という単一の河川の流域に集約されている。

厚岸町内では別寒辺牛川流域の2か所、水系不明(真龍)の1か所でハナタネツケバナが記録されている。真龍地区での記録は1963年にさかのぼり、北海道(千島列島を除く)では最古のハナタネツケバナの記録であるが、この地域では湿原の開発が大きく進められており、ハナタネツケバナの生育に適しているとみられる湿原は残存しておらず、自生地は消滅しているとみられる。

浜中町では、特定の河川の流域に属さない榊町の海岸湿原、風蓮川支流の姉別川の氾濫原に発達した湿原、幌戸川流域にひろがる幌戸沼周辺の湿原の3か所に、ハナタネツケバナが自生している。それぞれ独立した水系の3か所のハナタネツケバナの自生地を擁する市町村は、日本では浜中町だけである。また、これらの自生地がある程度の共通点は持ちつつも互いに環境が異なっ

ていることも、特筆に値する。

この度の調査によって上記の諸点が解明され、浜中町がハナタネツケバナの生態を研究するに当って無視すべからざるフィールドを擁する自治体であることが、明らかになった。

#### 4、3、浜中町のブランディングアイテムとしてのハナタネツケバナ

ハナタネツケバナはヨーロッパ全域や北米の一部地域ではありふれた植物であり、幾つもの呼び名で呼ばれている。そのうちの一つとして英語の milkmaid(乳しぼり娘)がある。然るに、北海道東部は日本随一の酪農地帯であり、日本でハナタネツケバナが見られる唯一の地域でありながら、ハナタネツケバナと酪農業を関連付けた地域のブランディングの前例が存在しない。

前項で述べたように、ハナタネツケバナの自生状況において浜中町は他の市町村に無い特徴を備えている。とりわけ姉別の自生地は牧草地に隣接し、何ら特段の保護の対象になってこなかったにもかかわらず、国内屈指の規模を有しており、浜中町の酪農業が自然環境との共存に成功している好例を為している。この事実は、貴重な絶滅危惧植物であるハナタネツケバナを浜中町が町内の酪農業や関連製品のブランディングに活用する資格と条件を、保証するものである。

#### 5、今後の課題と展望

この度の調査で、榊町のハナタネツケバナ自生地が最も株数が少なく、近年の減少傾向がそのまま続くと近い将来に消滅する可能性があることが判明した。その一方で、姉別では旧道の側溝という人工的な環境がツルスゲの進出を経てハナタネツケバナの集中的な定着に到っている。このことから、自生地の局所的かつ適度な攪乱によって、ハナタネツケバナの再定着を促せる可能性があることが判明した。民宿「霧多布里」の了承が得られたため、2025年に試験区を設けて湿原を数か所ツルスゲを根元まで刈り込むなどして攪乱し、以後5~10年間モニタリングを実施する予定である。この試験で攪乱試験区においてハナタネツケバナの再定着・株数増加が確認できれば、衰微傾向にあるハナタネツケバナ自生地を再生する手法の確立に直結する。

今回の調査地を含む幌戸地区で従来の知見を上回る規模のハナタネツケバナの自生地が確認されたこと、厚岸霧多布昆布森国定公園内で過去に記録されていなかったコアニチドリが発見されたことなどを併せ考えるに、現状は対3種特別保護地域となっている幌戸地区のカテゴリを第2種または第1種に引き上げるか、“矮蘆ヶ原”に限定して特別保護地区に指定するか、何らかのアクションが必要であると考えられる。

2024年度の調査地以外では、霧多布湿原南部の三番沢東方の一带、奔幌戸地区の奔幌戸川流域、恵茶人地区の小河川流域が、ハナタネツケバナが自生する可能性があるかと推察される。引き続き地権者の割り出しと交渉を実施し、地権者の了承が得られた区域から踏査を実施し、ハナタネツケバナの有無を含むフロラの記録を予定している。

#### 謝辞

新庄久志氏や高嶋八千代氏からはハナタネツケバナの自生地や生育環境などについて数多の御教示をいただきました。これらの御教示が無ければ、本研究は遂行不可能でした。

姉別の自生地の手前にひろがる牧場の経営者の方々には立ち入り許可をいただきました。姉別の調査地の近傍在住で地権者の親戚であるS氏には、湿原に隣接する牧場の経営者との立ち入り交渉の代行、探索時の駐車場所の御提供など、たいへんにお世話になりました。榊町の民宿「霧多

布里」には、ハナタネツケバナ生育状況の証言や立ち入りに際しての助言など、数々の有意義な情報を御提供いただきました。

北海道大学総合博物館、北海道大学植物園、釧路市立博物館、厚岸町海事博物館には標本閲覧の許可をいただきました。

浜中町の関連部署には、調査予定地立入許可を地権者と交渉する際に必要な地番情報を御提供いただきました。

佐直達夫氏には2024年5月25・26日に、速水将人氏(道総研林業試験場)には5月26・27日に、それぞれ現地調査に御同行いただきました。

Reidar Elven 名誉教授(ノルウェー・オスロ大学自然史博物館)にはハナタネツケバナと近縁種の相違について御教示をいただきました。

以上、記して感謝します。

## 参考文献

Edward Salisbury. 1965. The reproduction of *Cardamine pratensis* L. and *Cardamine palustris* Peterman particularly in relation to their specialized foliar vivipary, and its deflexion of the constraints of natural selection. *Proceedings of the Royal Society of London. Series B, Biological Sciences*, Vol. 163, Issue 992:321-342

神田房行・富士田裕子・辻井達一. 1992. ハナタネツケバナの分布. *植物研究雑誌*, 67-1:48-49

Wolfgang Lippert & Dieter Podlech. 1993. *Wild Flower of Britain & Europe*

高橋英樹・高嶋八千代・滝田謙讓. 2002. 別寒辺牛湿原とその周辺地域のフロラと絶滅危惧植物の現状. *財団法人前田一步園財団創立 20 周年記念論文集 北海道の湿原*, 51-64

佐藤雅俊・橘ヒサ子・松原光利・新庄久志. 2002. 別寒辺牛湿原の植生. *前掲書*, 65-86  
梅沢俊. 2007. *新北海道の花*

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編. 2012. フィールド版・改訂新版・日本の野生植物 II ミズハコベ科～スイカズラ科

松下(宮野)和江. 2024. 野付半島標津側の植物相. *釧路市立博物館紀要*, 42:17-27

高嶋八千代・松下(宮野)和江・高田玲子. 2024. 風蓮川流域でのハナタネツケバナ(*Cardamine pratensis* L.)の発見. *根室市歴史と自然の資料館紀要*, 36:13-16